

「大和ハウスグループ サステナビリティレポート2017」用語集

	用語	解説
ア	アクティブ(コントロール)	アクティブ(Active)とは積極的を意味する英語で、住宅・建築デザインにおいては、パッシブ(Passive)と対比して用いられ、「自然」を活かした建築デザインを行った上で、創エネや省エネなどを機械や設備などを用いて積極的に制御する設計手法のこと。
カ	グリーン調達・グリーン購入	CSR調達の一環として商品やサービスを購入する際、価格や品質だけでなく、環境負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入すること。当社グループでは、建設資材等については「グリーン調達」、業務に使用する紙や文具等については「グリーン購入」として使い分けている。
	再生可能エネルギー	有限で枯渇する可能性のある石油や石炭などの化石燃料ではなく、自然環境の中で繰り返し起こる現象等から取り出し、永続的に利用することができるエネルギーの総称。具体的には、太陽光や太陽熱、風力、地熱などを利用した自然エネルギーと、廃棄物の焼却による熱利用・発電などのリサイクルエネルギーのこと。
	サステナブル経営	企業が、将来世代を見据え社会や環境の持続可能性に貢献するとともに、企業も長期にわたり持続可能な経営を続けること。
	サプライチェーン	原料調達の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの全プロセスのつながりのこと。
	システム建築	規模や仕様の似た用途ごとに、外壁・構造躯体等を規格化し、一部の部材を工場にてあらかじめ加工・組み立てた建築物。現場で一から製作する在来工法に比べ、品質・価格の安定、工期の短縮が図れる上、現場での廃棄物削減や分別解体を容易にするなどの特長がある。
サ	スケルトン、インフィル	建築用語で、スケルトンは骨組みや構造体、インフィルは内部の設備や内装部分のこと。既存のスケルトンを活かしたまま、インフィル部分は比較的容易に入れ替えることができる。
	ストック(型)社会	物を使い捨て、資源を大量に消費するフロー消費型社会に対し、住宅をはじめとするさまざまな資産を修理しながら大事に使う社会のこと。フロー型社会からストック型社会への転換は、環境に与える影響も小さくすることができ、持続可能性の高い社会につながる。
	スマートハウス、スマートビル、スマートコミュニティ(シティ)	スマートハウス・スマートビルとは、家電や設備機器、太陽光発電・蓄電池などのエネルギー機器を情報通信技術を活用して最適制御を行い、生活者のニーズに応じた様々なサービスを提供する住宅やビルのこと。また、このような考えを街全体へ広げ、エネルギーの効率利用と快適な暮らしを両立した街のことをスマートコミュニティ(シティ)という。
	生物多様性	生きものの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは、長い歴史の中で様々な環境に適応して進化することによって多様な個性を持つとともに、全ての生きものは直接・間接的に支えあって生きている。1992年につくられた「生物多様性条約」では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしている。
	ゼロエミッション	ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすること。当社では、廃棄物を燃料利用するサーマルリサイクルも含めてゼロエミッション活動を展開している。
	バリューチェーン	原材料の調達から、お客様への製品・サービスの提供といった企業活動全般において企業が提供する付加価値や、それを受け取る(影響を受ける)ステークホルダー全体のこと。企業が提供する製品やサービスの付加価値が事業活動のどの部門で生み出されているかを分析する際に用いられる。
ハ	パッシブ(デザイン)、パッシブ(技術)、パッシブ(コントロール)	パッシブ(Passive)とは受動的を意味する英語で、住宅・建築デザインにおいては、エアコンなどの設備機器をできるだけ使わず、太陽熱や光、風、緑といった「自然」を活かして快適な建築空間をつくり出そうとする設計思想・設計手法のこと。
	プレハブ住宅	現場以外の場所(主として工場)で製造された部材等を、現場で組み立てることで建設する住宅のこと。品質・価格の平準化や工期の短縮などの面でも在来工法に比べ強みがある。
マ	メガソーラー	出力が1メガワット(1,000キロワット)以上の大規模な太陽光発電所のこと。
ラ	ライフサイクル	その製品に関する資源の採取などの調達から生産・輸送・施工・居住・改修・解体までの全ての段階。
	BELS	Building-Housing Energy-efficiency Labeling System(建築物省エネルギー性能表示制度)の略称で、新築・既存の建築物において第三者評価機関が省エネ性能を評価し認証する制度。性能に応じて5段階で★表示がされる。
	CSR	Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)の略語。当社グループでは、「企業が、社会・ステークホルダーからの要請や期待に応えるための、社会対応力」としている。CSRの実践の目的としてサステナブル経営がある。
	IR	Investor Relationsの略語。株主や投資家などとの良好な関係をつくるための活動のこと。
	ISO26000	(企業に限らない)組織が社会的責任を効果的に実践するための手引(ガイダンス)として、国際標準化機構(ISO)が2010年11月に発行した国際規格。
	LEED 認証	米国グリーンビルディング協会が開発した国際的な建築物環境性能評価システムで、7つの評価項目(敷地選定、水資源の保全と節水、エネルギーと大気、材料と資源、室内環境、革新性、地域別重みづけ)の合計点により4段階に格付される。
	ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)	外皮(外壁や窓など)の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現したうえで、再生可能エネルギーを導入し、年間の一次エネルギー消費量の収支が正味ゼロまたはマイナスの住宅。
	Nealy ZEH(ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)	ZEHを見据えた先進住宅として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量をゼロに近付けた住宅。
	ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)	先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現したうえで、再生可能エネルギーを導入し、年間の一次エネルギー消費量の収支が正味ゼロまたはマイナスの建築物。
	Nealy ZEB(ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)	ZEBに限りなく近い建築物として、ZEB Readyの要件を満たしつつ、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量をゼロに近付けた建築物。
	ZEB Ready(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル・レディ)	ZEBを見据えた先進建築物として、外皮(外壁や窓など)の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物。
	SDG	Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略語。2015年に「国連持続可能な開発サミット」で採択され、17の目標と169のターゲットからなる。
	一次エネルギー消費量	化石燃料、原子力燃料、水力・太陽光から得られるエネルギーを「一次エネルギー」、これらを変換・加工して得られるエネルギー(電気・灯油・都市ガス等)を「二次エネルギー」という。建築物は二次エネルギーが多く使用されており、それぞれ異なる計量単位(kWh、ℓ、MJ等)で使用されている。それを一次エネルギーに換算することにより、建築物の総エネルギー消費量を同じ単位(MJ、GJ)で求めることができるようになる。